

農村地域における 高齢者の「交流の場」が有する特性と機能の評価 —長野県諏訪郡富士見町を事例として—

○大内彩生* 新田将之** 中島正裕**

*東京農工大学大学院農学府 **東京農工大学大学院連合農学研究所

1. はじめに

◆研究背景

高齢者の「交流の場」

社会福祉協議会による「ふれあい・いきいきサロン」の設置(1994年～)

高齢者の健康の維持・促進

身体的健康

社会的健康

精神的健康

社会的に健全かつ豊かな人間関係をもち、何らかのかたちで社会貢献していること

地域における高齢者の存在[1] 他者との交流を通して自身の役割や生きがいを見つけることで、地域の一員としての自分を認識し地域をエンパワしていく存在

高齢者が社会的に健康であることは、まちづくりにおいても重要

高齢者を対象とした「交流の場」が果たす役割は大きい

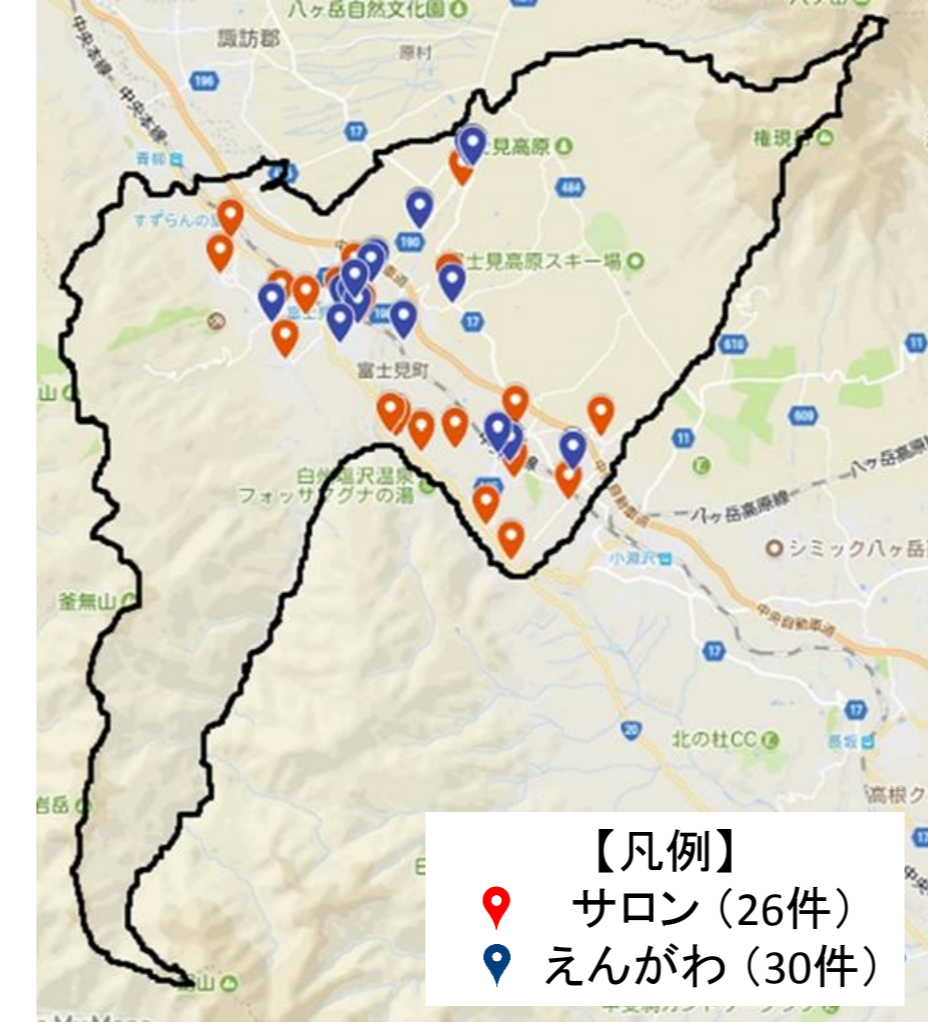
◆研究目的

- 【目的①】「交流の場」の評価指標の構築
- 【目的②】各「交流の場」の特性と機能の評価
- 【目的③】各「交流の場」の特性と機能の比較

2. 研究方法

◆研究対象地

長野県諏訪郡富士見町



サロン		えんがわ	
No.	地区	No.	地区
1	御射山神戸	1	富士見
2	栗生	2	富士見
3	原の茶屋	3	富士見
4	若宮	4	富士見
5	富士見ヶ丘	5	新田
6	乙事	6	新田
7	立沢	7	富士見
8	桜ヶ丘	8	立沢
合計 26件		合計 30件	

◆富士見町の「交流の場」の概要

サロン	えんがわ	出張えんがわ
<ul style="list-style-type: none"> *既存の「交流の場」の喪失がきっかけ *公民館で決まった曜日・時間に開催 *活動内容が多岐に渡る 例)軽体操、お茶のみ、レクリエーションなど 2013年開始 	<ul style="list-style-type: none"> *たまり場として機能していた商店や個人宅の社協への登録がきっかけ *参加機会に幅がある *立ち寄りとお茶のみが基本 2015年開始 	<ul style="list-style-type: none"> *依頼により社協が個人宅に出張する *外出が困難な高齢者が対象 *活動のほとんどはお茶のみ *不定期開催 2017年開始

日常生活における「交流の場」

◆調査・分析方法

- 資料調査……関連文献62本
- 資料調査……社協作成資料(サロンおよびえんがわの一覧など)
- 参与観察……サロン3件・えんがわ3件・出張えんがわ2件
- 聞き取り調査……地域住民40名・社協職員2名



富士見町社協地域福祉係事務所

3. 「交流の場」の評価指標の構築【目的①】

【仮説】

「交流の場」の特性が機能の発現に影響を及ぼす

交流の場・高齢者・サロン事業に関する文献62本より「交流の場」の評価指標を構築

- *特性指標(表1) 運営者側からみた「交流の場」の開催形態などを測る指標
- *機能指標(表2) 「交流の場」が参加者に及ぼす効果を測る指標

表1 「交流の場」の特性指標

特性指標	評価項目
1. 近接性(14)	①自宅からの距離が近い・起伏が無い ②生活環境となじみがある
2. 開放性(23)	①空間的に内外に対して開放的である ②地域住民に広く認知されている
3. 許容性(15)	①時間に幅がある・参加機会が多い ②居方・関わり方が自由である
4. 多様性(13)	①参加者が多様である ②活動内容が多様である
5. 主体性(2)	①住民が主体的に参加している ②参加者の関係が対等である

表2 「交流の場」の機能指標

機能指標	評価項目	個人
1. 個人間の関係構築(9)	①ネットワーク形成 ②情報交換	↑
2. コミュニティ形成(11)	①日常的互助 ②相互理解	
3. 社会貢献意欲の醸成(17)	①精神的健康の向上 ②社会的健康の醸成	
4. さらなる地域活動への発展(3)	①地域における高齢者の役割の創出	

※()内は言及文献数

★個人から地域レベルへと段階的に形成されると仮定

4. 各「交流の場」の特性と機能の把握【目的②】

◆サロン

- *特性指標 地区内の公民館で開催 →特性1-①を満たす
- *機能指標 情報交換が盛ん →機能1-②を満たす



◆えんがわ

- *特性指標 駅周辺の商店で開催 →特性1-②を満たす
- *機能指標 客同士が顔見知りになる →機能1-①を満たす



◆出張えんがわ

- *特性指標 個人宅の庭で開催 →特性2-①を満たす
- *機能指標 思い出話を共有する →機能2-②を満たす



◆日常生活

- *特性指標 区ごとの出払いでの会話 →特性4-②を満たさない
- *機能指標 農作物の出来具合を共有 →機能1-②を満たす



5. 各「交流の場」の特性と機能の比較【目的③】

特性指標および機能指標の適用結果に基づき、4種類の「交流の場」の総合評価を比較

【指標の適用方法】

- *特性指標 →調査および社協の資料により判断
- *機能指標 →聞き取り調査の結果より判断 ※口述データが確認できたものを○、確認できなかったものを×とした。

【評価方法】

- ①評価項目を○×で評価 ○…満たす、×…満たさない
- ②評価指標を◎○×で評価 ◎…全項目を満たす(全適合) ○…一部を満たす(一部適合) ×…全項目を満たさない(不適合)

◎…2点 ○…1点 ×…0点

表3 各「交流の場」の総合評価

評価指標	評価項目	総合評価			
		サロン	えんがわ	出張えんがわ	日常生活
特性	1.近接性	◎	◎	◎	◎
	2.開放性	×	◎	◎	◎
	3.許容性	×	◎	◎	◎
	4.多様性	×	◎	◎	◎
	5.主体性	×	◎	◎	◎
機能	1.個人間の関係構築	◎	◎	◎	◎
	2.コミュニティ形成	◎	◎	◎	◎
	3.社会貢献意欲の醸成	◎	◎	◎	◎
	4.さらなる地域活動への発展	×	×	×	×

※1 評価項目を双方満たすものは◎、片方満たすものは○、双方満たさないものは×とした。
※2 サロンの総合評価は、3件の各指標の評価において×がない場合を◎、1つ×がある場合を○、×のみの場合を×として評価した。

6. 総合考察

“「交流の場」の特性が機能の発現に影響を及ぼす”を検証

特性指標と機能指標の評価項目の結果が一致するところに着目

例)「情報交換」という機能は、「生活環境となじみがある」という特性により発現する。

5つの関係性を確認

表4 「交流の場」の特性と機能の関係性

発現する機能	影響を及ぼす特性	個人
i ネットワーク形成	地域住民に広く認知されている	↑
ii 情報交換	生活環境となじみがある	
iii 相互理解	自宅からの距離が近く、起伏が無い	
iv 社会的健康の醸成	活動内容が多様である	
v 地域における高齢者の役割の創出	参加者の関係が対等である	

◆本研究の成果

- I 「交流の場」の特性が機能の発現に影響を及ぼす可能性が示唆された。
- II 地域に対する機能より個人に対する機能の方が満たされる傾向にあることから、地域に対する機能の充実を目指した取り組みを検討していく必要がある。

◆今後の課題

- I 構築した評価指標の妥当性と信頼性の検証
- II 他地域におけるさらなる調査

■参考文献

[1]松谷ひろみ・原祥子:中山間地域に暮らす後期高齢者の個人エンパワメントの様相.日本看護研究学会雑誌. Vol.38, No.1, pp.101-111. (2015) 他3報
※本研究は日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(C)16K07945「集落～校区圏における住民主導の計画理論の構築」(代表:丸亀康彰)の助成を受けたことを付記する。

図1 各「交流の場」の総合評価

